

# 大阪市役所医師会報

発行 大阪市役所医師会 〒540-0008 大阪市中央区大手前2丁目1-7 大阪赤十字会館6階 (一財)大阪市環境保健協会内 TEL (06) 4792-7070

No.146 2022年(令和4年)11月

巻頭言

## ダイバーシティ医師会をめざして(2)

大阪市役所医師会会長 細井 雅之  
(大阪市立総合医療センター糖尿病内科部長)

令和4年8月27日 大阪市役所医師会総会、学術集会が行われました。

総会の事業報告、事業計画については、本冊子の後半をご覧ください。

学術集会についての報告も後半にあります。本年の大きな特徴は、「レジデント・研修医研究論文支援」発表があったことです。以前から、学術集会において優秀演題発表者には表彰状が送られてきました。(小生も10年近く昔にい



●今号の  
主な内容

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 巻頭言「ダイバーシティ医師会をめざして(2)」  | 1頁  |
| 令和4年度大阪市役所医師会学術集会報告      | 3頁  |
| 学術集会プログラム 優秀演題抄録         |     |
| 学術集会特別講演「医療現場における動機づけ面接」 | 8頁  |
| レジデント・研修医研究支援採択論文の報告     | 11頁 |
| 令和4年度大阪市役所医師会総会報告        | 12頁 |
| 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画      |     |
| 「臨床検査部医師の報告」             | 15頁 |
| 代議員会議事録(4~9月分)           | 18頁 |
| 大阪市役所医師会代議員名簿            | 24頁 |
| 大阪市役所医師会役員・委員会組織表        | 25頁 |
| レジデント・研修医研究支援規定及び細則      | 26頁 |
| お知らせ、編集後記                | 28頁 |

いただきました。大変光栄でした。) 昨年度から、レジデント、研究医が論文発表をすることにもサポートをすることになりました。特に海外医学雑誌の投稿料は大変値上がりしています。前、西口会長の時から大阪市役所医師会として支援することになりました。このように、大阪市役所医師会では、会員の学術、研究活動をサポートしてまいります。また、市民公開講座との共催により、市民サービス活動もサポートして参りました。

今後、大阪市役所医師会では、ダイバーシティを推進し、会員全員が輝ける職場をめざしていきたいと考えています。今年度には、様々な分野で活躍されている会員の先生を応援する活動を模索中です。「後輩医師の指導、市民、多職種へのサービス、接遇」など、論文にならない分野での活躍も応援することで、ダイバーシティな医師会活動をめざす所存です。どうぞ、様々なリクエスト、ご提案を大阪市役所医師会にまでお願いいたします。(細井雅之 m-hosoi@med.osakacity-hp.or.jp)





第59回(令和4年度)

## 大阪市役所医師会学術集会報告

大阪市役所医師会学術委員長 金本 巨哲  
(大阪市立総合医療センター 内分泌内科)

第59回(令和4年度)大阪市役所医師会学術集会は2022年8月27日に大阪市立総合医療センターさくらホールで開催されました。コロナ禍第7波のさなかではありましたが、感染対策に留意しつつ昨年に引き続き対面での開催となりました。

特別講演は大阪公立大学大学院 発達小児医学の川村智行先生(現 あべのメディカルクリニック)に「医療現場における動機付け面接の応用」のタイトルで御講演賜りました。今後の日々の臨床に役立てていけるといいなと思う内容で、大変勉強になりました。一般演題は12演題とたくさんの応募を頂きました。いずれも優劣の付けがたい発表内容ばかりでしたが、総合医療センター 小児総合診療科 久富隆太郎先生の「オナセムノゲン アベパルボベク投与後に血栓性微小血管症を発症した脊髄性筋萎縮症の一例」が優秀演題賞に選出されました。また、初の試みとして、大阪市役所医師会レジデント・研修医研究論文支援に採択された総合医療センター 呼吸器内科 山口実賀先生に「肺癌と鑑別を要したスエヒロタケによるアレルギー性気管支肺真菌症の一例」、総合医療センター 呼吸器外科 井口貴文先生に「術後早期に遠隔転移再発をきたし急速な転帰を辿ったThoracic SMARCA 4-deficient undifferentiated tumorの一症例」のタイトルで論文内容について発表頂きました。今後も若手の先生方のさらなる奮闘を期待しています。

依藤亨先生から引き継ぎ、今年から大阪市役所医師会学術委員長を務めることになり初めての学術集会でしたが、至らぬ点が多々あったかと思えます。内容を総括し、次回以降に生かしてまいりたいと思えます。

最後に、無事開催できたのは会員の先生方の御協力の賜物と存じます。加えて、発表頂いた先生方、役割分担頂きました先生方、学術委員の先生方に御礼申し上げます。



## 第59回（令和4年度）大阪市役所医師会学術集会プログラム

### 開会の辞（14：00）

大阪市役所医師会会長、大阪市立総合医療センター 糖尿病内科 細井雅之

### 【一般演題1】（14：05－14：45）

**座長** 大阪市立十三市民病院 小児科 平林円

(1) 院内における肝炎ウイルス陽性患者のピックアップ

大阪市立十三市民病院 消化器内科

○山口誓子、上村拓也、島田直、佐野弘治、谷川徹也、倉井修

(2) 妊娠糖尿病（GDM）既往女性を対象とした健康チェック事業の構築

大阪市健康局 健康づくり課、大阪市立総合医療センター 糖尿病内科

○生野淑子、岡田めぐみ、福本まりこ

(3) 新型コロナウイルス感染症クラスター対応の変遷と課題

大阪市保健所

○國吉裕子、半羽宏之、廣川秀徹、檜垣史郎、植田英也、中山浩二、吉田英樹

(4) IgA腎症患者における新型コロナワクチンによる副反応と腎機能への影響

大阪市立総合医療センター 腎臓・高血圧内科

○長辻克史、森川貴、國重龍一、松木葵、門澤啓太、坂田侑子、山崎大輔、濱田真宏、北林千津子、小西啓夫

### 【一般演題2】（14：45－15：25）

**座長** 大阪市子ども青少年局 八木敬子

(5) 手術前の無症候性患者におけるCOVID-19肺炎に対する低線量胸部CTスクリーニングの妥当性

大阪市立総合医療センター 放射線診断科

○大隈智尚、馬場玲亜、Pas Maciej、千菊有紗、井上菜穂子、前林徹範、濱本晋一、村田佳津子、真鍋隆夫

(6) 非糖尿病患者におけるCOVID-19治療中のインスリン使用予測因子についての検討

大阪市立総合医療センター 糖尿病内科、同 感染症内科

○木村真紀子、薬師寺洋介、高橋尚子、福田麻由、田添聡司、飯田宏美、玉井杏奈、



佐倉剛史、井坂吉宏、生野淑子、岡田めぐみ、元山宏華、山上啓子、福本まりこ、  
中河秀憲、白野倫徳、細井雅之

- (7) COVID-19感染症治療後1年時にロコモティブシンドロームに該当するリスク  
大阪市立十三市民病院 整形外科、大阪市立弘済院附属病院

○林和憲、窪田穰、前野考史、坂和明、榎原恒之、新谷康介、田中亨

- (8) COVID-19後の塗抹陽性肺結核罹患のリスクについての検討

大阪市保健所 感染症対策課、大阪市健康局

○康史朗、小向潤、蒲田脩圭里、橋本美穂、米田佳美、永石真知子、植田英也、  
津田侑子、吉田英樹

**【一般演題3】(15:25-16:05)**

**座長** 大阪市立十三市民病院 泌尿器科 安達高久

- (9) 聴神経腫瘍ガンマナイフ治療後の長期的一過性膨大に伴う三叉神経痛に対して腫瘍部分摘出術を行った1例

大阪市立総合医療センター 脳神経外科

○石野昇、石橋謙一、首藤太志、川嶋俊幸、大畑裕紀、池田英敏、岡田由実子、  
山中一浩

- (10) オナセムノゲン アベパルボベク投与後に血栓性微小血管症を発症した脊髄性筋萎縮症の一例

大阪市立総合医療センター 小児総合診療科

○久富隆太郎、藤井隆大、藤丸季可

- (11) ペースメーカー誘発性心筋症の発症率低下を目指したペーシング治療の試み

大阪市立総合医療センター 循環器内科

○占野賢司、加島裕美、野村菜々香、田村尚大、林雄介、齋藤聡男、仲川将志、  
松本亮、松村嘉起、阿部幸雄、成子隆彦

- (12) 臍頭十二指腸切除術における安全性の確立

大阪市立総合医療センター 肝胆膵外科

○村田哲洋、清水貞利、米光健、石原敦、櫛山周平、栗原重明、田嶋哲三、  
高台真太郎、金沢景繁

**【レジデント・研修医研究 論文支援発表】 (16:05-16:31)**

**座長** 大阪市立総合医療センター 初期急病診療部 山口利昌

**(1) 肺癌と鑑別を要したスエヒロタケによるアレルギー性気管支肺真菌症の一例**

大阪市立総合医療センター 呼吸器内科

山口実賀

(掲載論文 A case of allergic bronchopulmonary mycosis due to *Schizophyllum commune* with elevated serum carcinoembryonic antigen levels. *Respiratory Medicine Case Reports* 2022;38:101677)

**(2) 術後早期に遠隔転移再発をきたし急速な転帰を辿った Thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumor の一症例**

大阪市立総合医療センター 呼吸器外科

井口貴文

(掲載論文 A dramatic course after the resection of an SMARCA4-deficient undifferentiated tumour. *Respirology Case Reports* 2022;10:e01001)

**【特別講演】 (16:45-17:45)**

**座長** 大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本巨哲

**「医療現場における動機づけ面接の応用」**

大阪公立大学大学院 発達小児医学 准教授 川村智行先生

**優秀演題発表 審査委員代表 (17:45-17:55)**

**閉会の辞 (17:55)**

大阪市役所医師会学術委員長

大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本巨哲



## オナセムノゲン アベパルボベク投与後に血栓性微小血管症を 発症した脊髄性筋萎縮症の一例

大阪市立総合医療センター 小児総合診療科

○久富 隆太郎、藤井 隆大、藤丸 季可

### 【はじめに】

脊髄性筋萎縮症 (SMA) は、*SMN1* 遺伝子異常により進行性に筋力が低下する疾患である。1型は生後早期から発症する重症型で、1歳までに呼吸不全を来し、人工呼吸器管理を行わなければ、多くは2歳までに死亡する。SMA 1型に対し、2020年に非増殖性アデノ随伴ウイルス9型を利用した遺伝子治療用ベクター製品であるオナセムノゲン アベパルボベク (以下、同薬) が保険適用となった。同薬は単回の静脈内投与で生命予後及び運動機能の改善が期待できる新たな治療法となったが、市販後、同薬投与後に血栓性微小血管症 (TMA) の発症が報告されるようになった。今回我々は、同薬投与後にTMAを発症したSMA 1型女児に腎生検を行い、病理学的検討を行ったので報告する。

### 【症例】

1歳11か月のSMA 1型女児。X-1日からプレドニゾロン (PSL) を開始し、X日に同薬を投与した。X+5日、頻回嘔吐、肝機能障害、血小板減少、LDH 2183U/L、破碎赤血球を認めた。PSLを増量したが、高血圧、貧血、腎機能の悪化を認めた。降圧薬、利尿薬、血小板・赤血球輸血などで加療したが、無尿となった。X+8日から血液透析 (HD) を開始し、薬剤性TMAを疑って血漿交換を併用した。便培養は陰性でADAMTS13活性の低下はなく、エクリズマブを投与したが明らかな効果はなかった。X+14日、心不全のため当院転院となった。HDを持続療法に変更し、心不全やTMAの増悪を認めず、X+30日に透析を離脱した。確定診断のためX+49日に腎生検を施行した。光顕像で、メサンギウム基質および細胞のびまん性増加、内皮細胞腫大、基底膜の二重化を認めた。電顕像で内皮下腔拡大、メサンギウム融解、新生基底膜形成を認めた。血栓形成や高電子密度沈着物は認めず、TMAの慢性修復期と腎病理学的に診断した。現在、TMA発症から約2年が経過したが、嚥下障害や呼吸障害は認めず、経時的な運動機能の改善がみられている。肝機能や腎機能は正常化したが、軽度の高血圧が残存している。

### 【まとめ】

同薬は、治験時の有害事象として肝機能障害、血小板減少などを認めたが、TMAの報告はなかった。しかし、約1000例の投与後、自験例を含めて6例のTMAが報告されており、決して稀な有害事象ではない可能性がある。自験例は本邦の初症例であり、また腎病理学的に確定診断した世界第一例目である。自験例は今年のNeurologyに掲載された (Neurology 2022 May 10;98 (19) :808-813)。さらに、これらのTMAの報告を受け、添付文書の「重要な基本的注意」と「重大な副作用」にTMAが追記されるに至った。TMAの発症機序は不明であるが、同薬投与後にLDH上昇を伴う血小板減少を認めた場合は、TMAを疑い治療方針を検討する必要がある。



## 学術集会特別講演

# 医療現場における動機づけ面接

あべのメディカルクリニック

大阪公立大学大学院発達小児医学 客員准教授

川村 智行先生

### はじめに

動機づけ面接 (Motivational Interviewing: 以下 MI) を紹介させていただきます。  
MIは、アルコール依存症のカウンセリングから生まれ、現在では、医療、保健、教育、司法、矯正など多様な場面で適用され、その有用性が実証されている面接療法です。「変わることが必要な人を変えることをサポートする面接法」ということが出来ます。MIは、コーチングに似ていますが、MIは有効性を示したエビデンスが豊富です。

### 私のMIとの出会い

私自身の約30年の糖尿病臨床の経験の中で、積極的に最先端の治療を取り入れ1型糖尿病患者数も400人を超えるようになっていきました。その分、様々な問題を抱える患者さんも増加し、内科に紹介できない患者さん、網膜症、腎症、神経障害などの細小血管合併症の進行、動脈硬化、重症感染などの合併症によって亡くなる患者さんを救えないことも経験しました。変わりたいと思っていないように見える患者さんにどう対応すればいいのか悩んでいました。そんなとき、国際小児思春期糖尿病研究会のガイドライン<sup>1)</sup>の中にMIが思春期糖尿病とのコミュニケーションに有用であるという記載を見つけました<sup>2)</sup>。当時は、MIはネットでも見つからなかったです。やっと2007出版されたばかりの本<sup>3)</sup>を見つけました。そこにはアルコール依存症患者との面談からMIが生まれたことが書かれていました。私は、強く興味をひかれMIの勉強を始めました。

### MIとは<sup>3)</sup>

米国ニューメキシコ大学心理学Prof. W. Millerと英国カーディフ大学心理学Prof. S. Rollnickによって開発されたカウンセリング法です。アルコール依存患者との面接で、上手くいったカウンセラーの面談内容を実証的に解析することで生まれました。人は誰でも「分かっている」と「できない」の両面性 (Ambivalence) をもっています。うまく会話していくことで、内面の「分かっている」を汲み出して、増強していくという会話法です。

MIは進歩と発展を続けています。世界中で医療・福祉・教育・矯正などの多方面で使用されています。発展の原動力になっているのは、the Motivational Interviewing



Network of Trainer (MINT)です。MINTを通じて、MI指導者が、考えやトレーニング方法を議論し、日々洗練させています。私は、日本で最初にMIを学ばれた精神科医の原井宏明先生と同じく精神科医の小畔美弥子先生に師事し研修を2008年に始め、2013年からMINTメンバーとなりました。今では医療者や、学校、少年院、刑務所、家裁などの指導者にもMI研修をさせていただいています。

### チェンジトークと維持トーク

患者さんとの会話の中で、問題となっている両価性がはっきりしてきますと患者さんの発言の中にチェンジトークと維持トークが出てきます。チェンジトークは、変化の方向へ進む良い発言です。反対に維持トークは、変化の妨げになる発言を呼びます。例えば薬の内服に関する両価性でしたら、「飲んだ方が良いのは分かっているのですが、忙しいのでつい忘れるのです。」という発言がでたとします。「飲んだ方が良いのは分かっている」がチェンジトークで、「忙しいので忘れる。」が維持トークです。MIでは、このような患者の発言に含まれるチェンジトークを汲みだして、強化していくことで変化の手助けをします。

### MIの精神、技法、過程

MIのSprints精神は、Partnership (共同作業)、Acceptance (受容)、Compassion (思いやり)、Evocation (汲みだす)の頭文字PACEで示されます。患者のパートナーとして、その思いや状況を受容し、思いやりをもって、動機を喚起させるという精神です。その中でも思いやりがもっとも重要です。Skill技法は、OARSで示されます。Open question (開かれた質問)、Affirmation (是認)、Reflection (聞き返し)、Summarize (要約)の4つからなります。

特に聞き返しは重要なSkillです。患者さんの発言をうまく聞き返すことで、チェンジトークを汲みだし育てます。

Process過程は、患者さんとの会話の過程です。Engaging (関わる)、Focusing (焦点をしぼる)、Evoking (引き出す)、Planning (計画する)という4つのプロセスをたどっていきます。まずは、しっかりとした関係性を確立するEngageが一番大切です。

### MIのエビデンス

MIがしっかり使えているかを客観的に評価する方法があり、国際的に標準化されております<sup>4)</sup>。会話を書き起こして、医療者の発言をコード化して点数化できるのです。そのおかげで、ランダム化比較試験が可能です。300以上のランダム化比較試験が報告され、様々な分野での効果が示されています。

### MIを学ぶには

MIは身に着けるには練習が必要ですが、音楽やスポーツのように学ぶ中で上達する楽しさがあります。各地で様々な研修会が開かれておりますので、Webで検索してい

ただきますと見つけることができます。我々は、「アベノMI研究会」という定例勉強会を主催しております。毎月金曜日夕方に行っておりますので、ご興味のある方は私まで (garurumusashi@gmail.com) ご連絡いただきますと幸甚です。

## 文献

- 1) 日本小児内分泌学会糖尿病委員会. 国際小児思春期糖尿病学会臨床診療コンセンサスガイドライン2006~2008. 日本小児科学会雑誌112(1):112~128 (2008)
- 2) Channon SJ, Huws-Thomas MV, Rollnick S et al. A multicenter randomized controlled trial of motivational interviewing in teenagers with diabetes. Diabetes Care 30: 1390-1395. (2007)
- 3) ウイリアム・ミラー、ステファン・ロールニック、動機づけ面接法—基礎・実践編一、星和書店 (2007)
- 4) Motivational Interviewing Treatment Integrity Coding Manual 4.2.1  
[https://casaa.unm.edu/download/MITI4\\_2.pdf#search=%27MITI+4.2+motivational%2](https://casaa.unm.edu/download/MITI4_2.pdf#search=%27MITI+4.2+motivational%2)





A case of allergic bronchopulmonary mycosis due to *Schizophyllum commune* with elevated serum carcinoembryonic antigen levels  
Respiratory Medicine Case Reports 38 (2022) 101677

肺癌と鑑別を要したスエヒロタケによるアレルギー性気管支肺真菌症の一例

大阪市立総合医療センター 呼吸器内科

山口 実賀、山入 和志、藤井 裕子、三木 雄三  
眞本 卓司、柳生 恭子、少路 誠一

### 【症例】

78歳女性。主訴は咳嗽。喫煙歴や気管支喘息既往なし。X年12月から咳嗽があり、X+1年2月に前医の胸部CTで左下葉S6腫瘤影と縦隔リンパ節腫大を指摘、FDG-PET/CTの集積を伴った。血液検査はCEA 15.6 ng/mlで、経気管支肺生検で悪性所見はなかった。X+1年6月に当院へ紹介されたがCEAは低下、腫瘤影も消失しており経過観察とした。X+1年9月に粘稠喀痰が出現、胸部CTで右中葉無気肺を来し、血液検査で末梢血好酸球数、IgEが上昇、CEAが再上昇していた。気管支鏡検査で右中葉入口部に粘液栓がありスエヒロタケ (*Schizophyllum commune*) を検出し、ABPMの診断に至った。

### 【考察】

ABPMの診断基準が2020年に発表されたが、症状出現から診断まで約10か月を要した。経過初期には診断基準を満たさない場合もあり慎重な経過観察が必要である。

A dramatic course after the resection of an SMARCA4-deficient undifferentiated tumour  
Respirology case reports 2022; 10: e01001

術後早期に遠隔転移再発をきたし急速な転帰を辿った Thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumor の一症例

大阪市立総合医療センター 呼吸器外科  
井口 貴文、水口 真二郎、丁奎 光、中嶋 隆、高濱 誠

### 日本語抄録

症例は68歳男性、B.I=1000。健診で胸部異常影を指摘。左上葉に35mm大の腫瘤を認め、左肺門リンパ節は腫大していた。生検で非小細胞肺癌、c-T2aN1M0と診断した。手術は、気管支形成及び肺動脈形成を伴った左上葉切除+ND2a-2を施行。病理組織学的には、ラブドイド細胞が充実性に増殖しており、AE1/3 (一部+)、TTF-1 (-)、p40 (-)、SMARCA4 (-)であり、Thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumor, pT2aN1M0, Stage IIBと診断した。肉腫型病変のため術後補助化学療法は施行せず。術後2カ月で硬膜転移、副腎転移、多発骨転移を認めた。PS不良のため薬物療法は施行されず、術後4カ月で永眠された。Thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumorの中でも肺原発の本症例は稀であり非常に高い悪性度である腫瘍であり、上記論文に報告した。

## 令和4年度大阪市役所医師会 総会議事録

日時 令和4年8月27日(土) 13:30～13:50

出席 会員54人 事務局3人 計57人

○日浦総務委員長が開会の辞を述べる。

○会長挨拶

○令和4年度市役所医師会組織について 総務委員長より報告

○会計報告 令和3年度事業報告 事務局より報告

令和3年度決算報告

令和4年度事業案説明

令和4年度予算案説明

○日浦総務委員長が報告の承認を求め、異議なく拍手でもって承認を得る。

14時よりの学術集会の開始を案内して総会を終了する。



# 令和3年度 事業報告

## 1. 総務委員会

- 大阪市役所医師会総会  
総合医療センターさくらホール 令和3年8月31日開催
- 5大学医師会、府庁医師会との懇談会  
令和3年11月25日開催 コロナ対応下の市民病院状況を説明
- 各月 大阪府医師会郡市区等医師会長協議会に参加

## 2. 学術委員会

- 大阪市役所医師会学術集会開催  
総合医療センターさくらホール 令和3年8月31日  
演題：10題  
特別講演：「千年カルテの現状と今後の展望」  
京都大学・宮崎大学名誉教授 ライフデータイニシアティブ代表理事  
吉原 博幸 先生

## 3. 広報委員会

- 大阪市役所医師会会報誌発行（143・144号）
- ホームページ更新、会員名簿掲載

## 4. 男女共同参画委員会

- 女性医師の会補助
- 会報発行（28・29号）
- 説明（歓迎）会 令和3年4月2日
- 女性医師の会総会・特別講演会 令和4年3月11日  
「医療現場の行動経済学」～すれ違う医者と患者～  
大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授  
大竹文雄 先生

## 5. 勤務条件等検討委員会 新型コロナウイルス感染症に対する保健所業務などに注視

## 6. 講演会開催等

- 後援 十三市民病院糖尿病フェスタ 令和3年11月16～31日  
十三市民病院糖尿病内分泌内科
- 共催 市民公開糖尿病ゼミナール Web開催 令和3年11月8～22日  
大阪市立総合医療センター糖尿病内科
- 後援 かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修 Web開催  
大阪市立弘済院附属病院 令和3年10月14日
- 後援 第13回大阪市認知症セミナー Web開催 令和4年1月20日  
大阪市立弘済院附属病院/医療法人遊心会咲く花診療所
- 後援 かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修 Web開催  
ほくとクリニック 令和4年3月5日

## 7. 保健衛生委員会

## 8. レジデント研修医委員会 研究支援規程を整備、実施する

## 9. 大阪市医学会との連携

- 大阪市医学会会長賞協賛
- 医学会会費負担

## 10. すこやかパートナー活動

## 11. 大阪市救急医療事業団との連携

## 12. 寄付等

- 日本WHO協会賛助会員
- 弔慰金 継続会員1名

## 令和4年度 事業計画

### 1. 総務委員会

大阪市役所医師会総会  
大阪府医師会との連携強化  
5大学医師会、府庁医師会との連携強化  
他大阪市関連医療機関等との連携強化  
市民公開講座等への後援他  
事務局経費

### 2. 広報委員会

大阪市役所医師会会報誌発行  
ホームページ更新、会員名簿掲載

### 3. ダイバーシティ推進働き方改革委員会

勤務条件等検討

### 4. ダイバーシティ推進男女共同参画委員会

女性医師の会補助  
会報作成他  
大阪市女性医師ネットワークとの連携強化

### 5. 学術委員会

大阪市役所医師会学術集会開催  
大阪府医師会学術集会参加

### 6. レジデント・研修医委員会

講演会・研修会補助  
研究支援等

### 7. 論文審査委員会

研究支援等の論文審査

### 8. 大阪市医学会との連携

大阪市医学賞協賛  
会費負担

### 9. 講演会協力

各学術講演会等後援・協賛

### 10. すこやかパートナー活動

### 11. その他

代議員会費  
理事会  
委託事務費  
雑費



## 『 臨床検査部医師の報告 』

大阪市立総合医療センター 中央臨床検査部  
竹内 敏

2021年7月の臨床検査部入職です。この間に得ました臨床検査に係る情報を先生方にお伝えしたく、本報をとりまとめました。

臨床検査部の仕事は、患者さんから採取された検査材料（血液、尿、便、細胞など）を調べる「検体検査」と、患者さんに機器をあてて身体の状態を調べる「生理機能検査」の二つに大きく分けられます。

これらの検査から得られた客観的指標は、病気の診断や診療に必要な情報となると信じて検査部一同職務に励んでいます。始めに、実施検査数を示します。

### <2021年度の検査数>

| 分 野          | 検 査 数             |
|--------------|-------------------|
| 採血、採尿業務（外来）  | 174,325 オーダー/年    |
| 検体検査数        | 6,762,591 項目/年    |
| 生理機能検査数      | 67,613 オーダー/年     |
| 微生物検査数       | 92,892 項目/年       |
| 輸血検査数        | 49,078 項目/年       |
| 病理検査数        | 36,903 オーダー/年     |
| 遺伝子検査数       | 9,701 項目/年        |
| 新型コロナウイルス検査数 | 14,560 件/年        |
| 他病院からの集約件数   | 3,064 項目/年（十三集約分） |

検体検査の項目数は、1231項目（2022/4/21）に及びます。

項目の数え方ですが、（例えば）Na、K、Clを測定すると3項目となります。

これらの検査を担当する臨床検査部職員は『検査は“正確に、早く”』を矜持として、業務を担当しています。

“正確に、早く”を支える手法は以下の通りです。

- ① “正確（精確）に”の拠り所は精度管理（内部精度管理、外部精度管理）です。  
検査業務の品質保証を行うために精度管理を行います。  
・内部精度管理は、検査値の標準化、施設内互換性担保のために行います。  
検査部門で実施する内部精度管理プログラムを手順通りに実施し、記録を残します。  
記録は上位者に報告され、確認されます。

管理項目は、コントロール許容限界確認、管理図法を用いた「正確さ」「精密さ」「アウト」「トレンド」「シフト」の検出と対応などです。

検査に使用する機器の常時メンテナンスが基盤になることはいうまでもありません。  
 ・外部精度管理は、検査結果の妥当性を確認するために、「検査室間比較」を行い、必要に応じて是正処置を実施します。

<外部精度管理結果>

| 実施機関         | 総合評価      |
|--------------|-----------|
| 日本臨床衛生検査技師会  | 100.0/100 |
| 大阪府医師会       | 95.8/100  |
| 日本医師会        | 98.2/100  |
| 大阪府臨床衛生検査技師会 | 評価A       |

(2021年度実施分)

② “早く”の目安は、検査所要時間の管理です。

所要時間とは、外来患者が採血採尿室に入室してから検査結果が端末の検査結果照会画面に反映するまでの平均時間です。

<血液、生化学、尿一般の所要時間>

|    | 血液  | 生化学 | 尿一般 |
|----|-----|-----|-----|
| 通常 | 30分 | 50分 | 60分 |
| 迅速 | 20分 | 40分 | 50分 |
| 緊急 | 10分 | 20分 | —   |

入院患者の検査は、午前7:30までに検査室に到着した検体を、午前9時までに報告します。

③ パニック値 (critical value) を担当医師に連絡します。

「パニック値」とは、「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値」で、直ちに治療を開始すれば救命しうるが、その把握は臨床的な診察だけでは困難で、検査によってのみ可能とされています (Lundberg GD 1972)。



<2021年7月-12月のパニック値報告件数>

| 分野   | 総件数/半年 | うち外来数     | うち入院数    |
|------|--------|-----------|----------|
| 血液   | 92     | 74        | 18       |
| 生化学  | 78     | 49        | 29       |
| 免疫   | 38     | 30        | 8        |
| 一般   | 33     | 19        | 14       |
| 薬物治験 | 20     | 10        | 10       |
| 生理   | 20     | 19        | 1        |
| 病理   | 3      | 3         | 0        |
| 輸血   | 0      | 0         | 0        |
| 合計   | 284    | 204 (72%) | 80 (28%) |

日本臨床検査医学会は、「報告を受けた担当医師は、対応履歴をカルテに記録する」と提言しています (2021.12.25)。

以上、先生方の日常診療に深く関わる臨床検査部情報をお知らせしました。

これからも、患者さんが安全で良質な医療を受けていただける一助になりますよう、自らの専門性を高め、お互いに連携・補完して業務を遂行してまいります。

先生方には、引き続きご指導をお願いいたします。

○参考資料

- ・総合検査案内 (院内ポータル：ヘルプデスク)
- ・日本医師会雑誌 第150巻・特別号 (1)
- ・日本臨床検査医学会「提言」2021.12.25

# 大阪市役所医師会

## 令和4年4月代議員会議事録

と き：令和4年4月26日（火） 午後7時～午後8時5分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 根引 浩子 上川 禎則 日浦 義和 出雲谷恭子  
鈴木 真司 金本 元勝 村田佳津子 清水 貞利 山口 利昌  
藤丸 季可 中井 隆志 山上 啓子 吉田 葉子 斎藤 三佳  
天羽 清子 半羽 宏之 八木 敬子（18名）

委任状提出：

金本 巨哲 平林 円 中田 真一 岡田めぐみ 栗原 敏修  
温井めぐみ 寺川 由美 日高 典昭 川崎 靖子 古塚 大介  
田中 亨 森川 貴 喜多村祐里（13名）  
堂免 荘八 山下 直子 木幡利至朗（事務局）

<委員会報告>

代議員自己紹介

<議題>

- 1) 大阪市役所医師会会則の改正について
  - ・第9条第3項のうち、委員会名称の廃止、新設及び改称 ➡承認
- 2) 令和4年度市役所医師会の組織について
  - ・新体制について
  - ・ダイバーシティ推進働き方改革委員会およびダイバーシティ推進男女共同参画委員会の新設について
  - ・保健衛生委員会の廃止、論文審査委員会の新設について
  - ・ダイバーシティ推進働き方改革委員会の委員長について
  - ・監査委員について
  - ・大阪府医師会学術委員について
- 3) 会員の連絡網について
- 4) 論文審査委員会の業務内容について
  - ・教育研修センターの協力について
- 5) 大阪府医師会代議員の選出について
- 6) 令和3年度決算見込について
- 7) その他
  - ・8月の総会及び学術集会について



# 大阪市役所医師会 令和4年5月代議員会議事録

と き：令和4年5月25日（水） 午後7時～午後7時45分  
ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 上川 禎則 日浦 義和 金本 元勝 齋藤 三佳  
檜垣 史郎 鈴木 真司 喜多村祐里 山上 啓子 栗原 敏修  
藤丸 季可 山口 利昌 森川 貴 天羽 清子 日高 典昭  
中井 隆志 金本 巨哲 村田佳津子 藤野 光洋 八木 敬子  
宮保 浩子 清水 貞利（22名）

委任状提出：

根引 浩子 平林 円 出雲谷恭子 岡田めぐみ 寺川 由美  
田中 亨 安達 高久 温井めぐみ（8名）  
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

## <委員会報告>

- ・会長報告
- ・委員会報告

## <議題>

- 1) 8月の学術集会の一般演題募集要項について  
・ 8月27日（土）午後1時～ 総会  
1時30分～ 学術集会  
特別講演：大阪公立大学 川村先生  
「モチベーションインタビュー 医療で使える面接法」  
託児ルームの設置について
- 2) レジデント・研修医研究支援規程について  
・ 細則の修正・改定について
- 3) 「大阪市役所医師会MVP」の設立について
- 4) その他  
・ 市役所医師会ホームページ パスワード変更について

# 大阪市役所医師会 令和4年6月代議員会議事録

と き：令和4年6月28日（火）午後7時～7時40分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 上川 禎則 日浦 義和 金本 巨哲 村田佳津子  
齋藤 三佳 宮保 浩子 檜垣 史郎 鈴木 真司 天羽 清子  
中井 隆志 山口 利昌 山上 啓子 出雲谷恭子 清水 貞利  
廣川 秀徹 吉田 葉子 根引 浩子 八木 敬子（19名）

委任状提出：

藤丸 李可 寺川 由美 岡田めぐみ 温井めぐみ 古塚 大介  
森川 貴 平林 円 藤野 光洋 中田 真一 栗原 敏修  
（10名）  
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

## <委員会報告>

- ・会長報告
- ・委員会報告

## <議題>

- 1) 役員・委員会組織表について
- 2) レジデント・研修医研究支援規程及び同細則の一部改正について
- 3) 第59回学術集会開催の案内および演題募集について
  - ・演題募集及びポスターの作成について
  - ・学術集会スケジュールについて
  - ・府医師会生涯研修プログラムの登録申請について
  - ・託児ルームについて
  - ・抄録集の印刷について
  - ・昨年度レジデント・研修医研究支援論文の報告について
- 4) 「大阪市役所医師会MVP」の設立について
- 5) その他

・女性医師の会講演会について

令和5年3月3日（金）

講師 大阪公立大学 医療統計学教授 新谷歩先生



# 大阪市役所医師会

## 令和4年7月代議員会議事録

と き：令和4年7月27日（水） 午後7時～7時55分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 根引 浩子 上川 禎則 栗原 敏修 宮保 浩子  
八木 敬子 温井めぐみ 村田佳津子 中井 隆志 藤丸 李可  
天羽 清子 藤野 光洋 寺川 由美 鈴木 真司 日浦 義和  
清水 貞利 日高 典昭 金本 巨哲 森川 貴 山口 利昌  
(20名)

委任状提出：

岡田めぐみ 安達 高久 斎藤 三佳 喜多村祐里 平林 円  
山上 啓子 古塚 大介 半羽 宏之 檜垣 史郎 中田 真一  
廣川 秀徹 出雲谷恭子 (12名)  
堂免 荘八 山下 直子 (事務局)

<委員会報告>

- ・会長報告
- ・委員会報告

<議題>

- 1) 総会、第59回学術集会について
  - ・一般演題12件およびレジデント・研修医研究、論文作成支援発表2件
  - ・レジデント・研修医研究支援の条件について
- 2) 「大阪市役所医師会MVP賞」選考委員会・選考規約（案）について  
今後も検討が必要
- 3) その他
  - ・8月の代議員会について

# 大阪市役所医師会 令和4年8月代議員会議事録

と き：令和4年8月27日（土）午後0時30分～1時15分

と ころ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 半羽 宏之 根引 浩子 日浦 義和 宮保 浩子  
古塚 大介 八木 敬子 平林 円 温井めぐみ 中井 隆志  
藤丸 李可 天羽 清子 山口 利昌 廣川 秀徹 喜多村祐里  
出雲谷恭子 清水 貞利 金本 巨哲 森川 貴（19名）

委任状提出：

上川 禎則 山上 啓子 藤野 光洋 檜垣 史郎 金本 元勝  
中田 真一 斎藤 三佳 栗原 敏修 村田佳津子 鈴木 真司  
寺川 由美（11名）  
堂免 荘八 山下 直子（事務局）

<委員会報告>

- ・会長報告
- ・委員会報告

<議題>

- 1) 総会、第59回学術集会の確認
- 2) 「大阪市役所医師会MVP賞」選考委員会・選考規約（案）について



# 大阪市役所医師会 令和4年9月代議員会議事録

と き：令和4年9月28日（水） 午後7時～7時40分

ところ：総合医療センター さくらルーム

出席者：細井 雅之 半羽 宏之 根引 浩子 上川 禎則 斎藤 三佳  
出雲谷恭子 中井 隆志 温井めぐみ 藤丸 李可 寺川 由美  
村田佳津子 山上 啓子 鈴木 真司 天羽 清子 清水 貞利  
栗原 敏修 日浦 義和 喜多村祐里 山口 利昌 金本 巨哲  
(20名)

委任状提出：

平林 円 森川 貴 岡田めぐみ 古塚 大介 八木 敬子  
中田 真一 檜垣 史郎 廣川 秀徹 (8名)  
堂免 荘八 山下 直子 (事務局)

## <委員会報告>

- ・会長報告
- ・委員会報告

## <議題>

- 1) 総会、学術集会の結果について
  - ・参加者57人
  - ・学術集会 優秀賞は総合医療センター小児総合診療科の久富医師が受賞
  - ・レジデント・研修医研究論文支援発表が2名
- 2) 「大阪市役所医師会健闘賞、会長賞」選考委員会・選考規約（案）について
- 3) 市役所医師会後援等依頼案件について
  - ・市民公開糖尿病ゼミナール 11月7日～21日・Web開催
  - ・令和4年度かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修
- 4) その他

## 大阪市役所医師会代議員一覧（ブロック別）

（令和4年4月26日現在）

| ブロック名               | 代議員氏名   |
|---------------------|---|
| 総合医療センター            | 上川 禎則    天羽 清子    金本 巨哲    川崎 靖子<br>清水 貞利    駄賀 晴子    中井 隆志    根引 浩子<br>温井めぐみ    日高 典昭    藤野 光洋    藤丸 季可<br>古塚 大介    細井 雅之    宮保 浩子    村田佳津子<br>森川 貴    山上 啓子    山口 利昌    吉田 葉子 |
| 十三市民病院              | 安達 高久    斎藤 三佳    中田 真一    日浦 義和<br>平林 円  |
| 住之江診療所              | (欠員)  |
| 健康局                 | 岡田めぐみ   |
| 保健所等                | 國吉 裕子    寺川 由美    半羽 宏之    檜垣 史郎<br>廣川 秀徹   |
| こころの健康センター          | 喜多村祐里   |
| 福祉局                 | (欠員)  |
| 心身障がい者リハビリテーションセンター | 鈴木 真司   |
| 弘済院附属病院             | 金本 元勝    田中 亨   |
| 総務局                 | 出雲谷恭子   |
| こども青少年局＋こども相談センター   | 八木 敬子   |
| 教育委員会               | 栗原 敏修   |

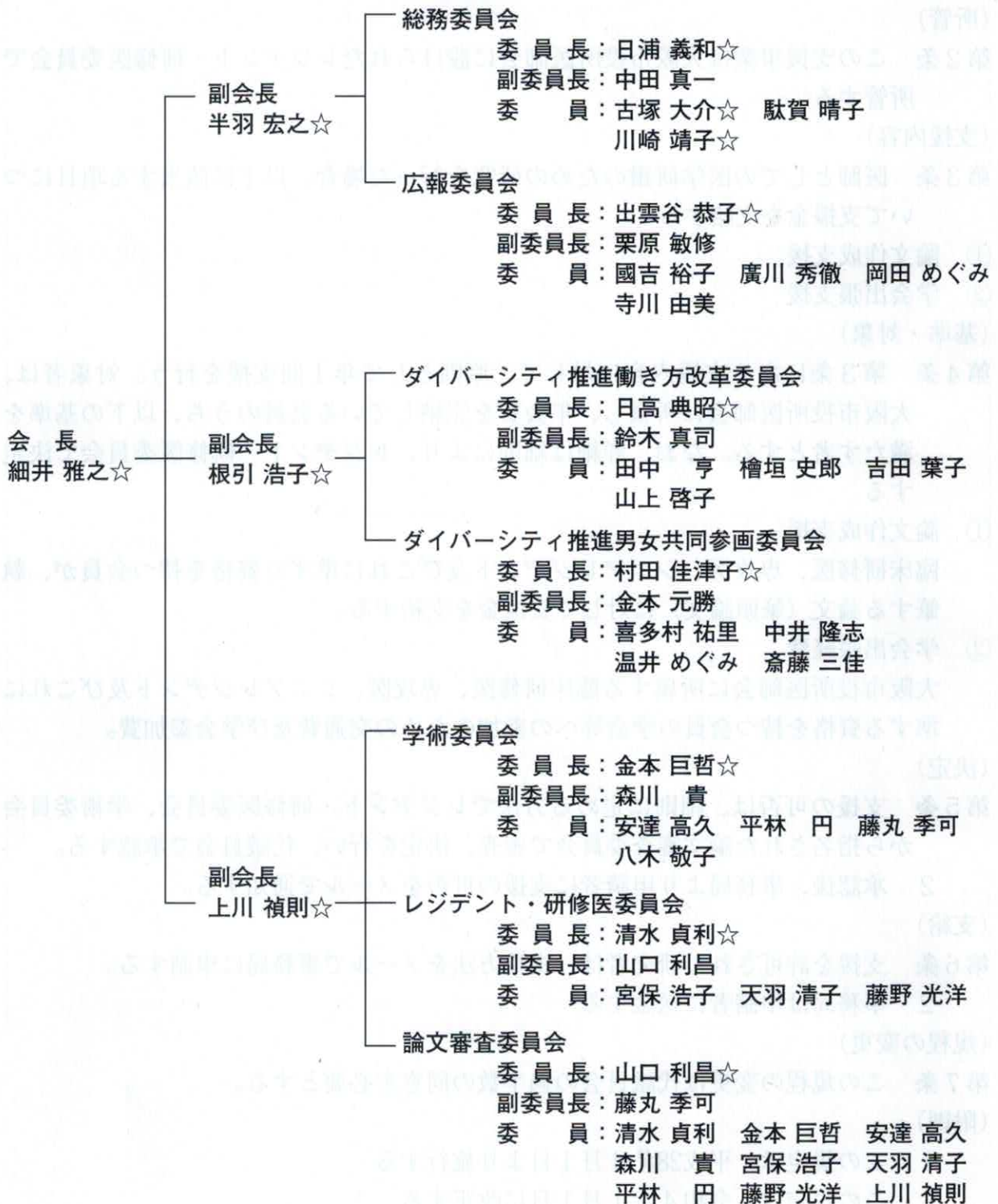


# 大阪市役所医師会役員・委員会組織表

議長：総会時に指名

☆は理事

監査委員：山根 孝久 市場 博幸



## レジデント・研修医研究支援規程

大阪市役所医師会

### (目的)

第1条 大阪市役所医師会員のレジデント・臨床研修医に対し、医学研鑽のため大阪市役所医師会として支援することを目的とする

### (所管)

第2条 この支援事業は大阪市役所医師会に設けられたレジデント・研修医委員会で所管する

### (支援内容)

第3条 医師としての医学研鑽のための研究を行った場合、以下に該当する項目について支援金を支給する

- ① 論文作成支援
- ② 学会出張支援

### (基準・対象)

第4条 第3条にある支援内容に対して、原則として年1回支援を行う。対象者は、大阪市役所医師会に所属し、年会費を完納している会員のうち、以下の基準を満たす者とする。なお、詳細は細則により、レジデント・研修医委員会で決定する

- ① 論文作成支援  
臨床研修医、専攻医、シニアレジデント及びこれに準ずる資格を持つ会員が、執筆する論文（筆頭論文）に対して支援金を支給する。
- ② 学会出張経費  
大阪市役所医師会に所属する臨床研修医、専攻医、シニアレジデント及びこれに準ずる資格を持つ会員の学会等への参加のための交通費及び学会参加費。

### (決定)

第5条 支援の可否は、細則に定める方法でレジデント・研修医委員会、学術委員会から指名された論文審査委員会で審査、決定を行い、代議員会で承認する。

- 2 承認後、事務局より申請者に支援の可否をメールで通知する。

### (支給)

第6条 支援を許可された研究者は、支給方法をメールで事務局に申請する。

- 2 事務局は申請者に送金する

### (規程の変更)

第7条 この規程の変更は代議員会の過半数の同意を必要とする。

### (附則)

- 1 この規定は、平成28年4月1日より施行する
- 1 この規定は、令和4年1月1日に改正する
- 1 この規定は、令和4年6月28日に改正する



## レジデント・研修医研究支援規程細則

### (論文に関する事項)

対象：大阪市役所医師会（以下、「市役所医師会」という）に所属する臨床研修医、専攻医、シニアレジデント及びこれに準ずる資格を持つ会員

申請方法：論文執筆を計画した段階で、市役所医師会代議員もしくは所属長（診療科部長等）を通して事務局に申請をおこなう。

申請時に必要な報告事項：標題、著者名、要旨、投稿予定雑誌名、英文校正料や掲載料等の必要経費見込み額

支給限度額：邦文誌：2万円まで、英文誌：5万円まで

審査：申請があれば事務局で応募資格を確認し、レジデント・研修医委員会、学術委員会から指名された審査委員会で随時審査をおこなう。論文審査委員会は、市役所医師会代議員会で審査の報告をおこない承認をえる。結果は研究者及び申請に関わった市役所医師会代議員もしくは所属長（診療科部長等）に事務局より連絡する。

支給方法：申請および審査は計画段階でおこなうが、支給はアクセプトの段階とする。

支給までの手順：アクセプトが確認できる資料を事務局に提出、レジデント・研修医委員会で確認の後、事務局が指定口座に振り込む。

その他の規定：・査読規定のある医学雑誌

- ・年間1人につき1論文とする。1診療科につき2論文以内
- ・支援が決定した論文の内容に関しては市役所医師会学術集会で発表する
- ・論文内に市役所医師会の支援を受けたことを記載する

### (学会出張経費に関する事項)

対象：市役所医師会に所属する臨床研修医、専攻医、シニアレジデント及びこれに準ずる資格を持つ会員（大阪市民病院機構に所属する臨床研修医、専攻医、シニアレジデントは、市民病院機構の補助があるため認めない）

申請：所属する代議員に申請する。様式は別途定める。

期間：機構と行政の格差解消までの期間とする。

支給：決定次第、金額指定口座に振り込む。（対応は事務局で行う）

実費弁済を基本とするが、機構と同一条件で合理的な方法をとること

旅費の基準は大阪市の規則を準用する。また、出張先は国内に限定する。

その他の規定：別に所属、あるいは主催学会等から学会出張等の支出が有る場合は、他方を優先する。

### (その他事項)

- ・この事項については、総務、レジデント・研修医委員会、学術委員会、ダイバーシティ推進働き方改革委員会が共同して対応する。
- ・この細則の変更については、関係委員会の委員長の合議により決定する。
- ・この細則は令和4年1月1日より施行する。
- ・この細則は令和4年6月28日より施行する。

## 令和4年度 大阪市役所医師会 女性医師の会 主催講演会のお知らせ

日時：令和5年3月3日（金）18：30～19：30

場所：大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール

講師：新谷 歩先生 大阪公立大学 医療統計学教授

テーマ：「臨床研究を紐解く医療統計学」

### 会員名簿について

会員名簿については、大阪市役所医師会ホームページ <http://www.ocma.jp/> の会員専用ページに掲載しております。会員専用ページ閲覧に必要なIDとパスワードは令和4年5月に事務局より先生方に通知させていただきました。

会員情報を各自ご確認いただき、修正必要箇所がありましたら、恐れ入りますが事務局までメールにてお知らせください。年度途中で退職予定の方は、退会届を事務局にご提出ください。その他、会員の転入・転出・異動があればご一報くださいますようお願いいたします。

大阪市役所医師会事務局の連絡先は、TEL 06-4792-7070、  
メールアドレスは [ishikai@oepa.or.jp](mailto:ishikai@oepa.or.jp) です。

### 編集後記

勤務医師会報146号が出来ましたのでお届けします。先生方にはお忙しい中原稿をお寄せいただきありがとうございました。

コロナ禍の中でも少しずつ日常が戻りつつありますが、インフルエンザ等、今後も感染症の動向が不安視されています。引き続き一人一人が確実に役割を果たしていきたいと思  
出雲谷 恭子 記